

日本鉄鋼協会記事

第6回企画委員会

開催日：2月16日。出席者：河西委員長，ほか16名。

1. ISOTCI7 事務局設立準備委員会報告

事業活動規模 9100 万円の内3月末に政府補助金が確定するので，その残額を各社に分担願ひ，4月より事業を開始する予定である。又，田中芳徳(新日本製鉄)，荒山孝郎(日本鋼管)，松村和良(川崎製鉄)の3氏が事務局に派遣され，吉田常務理事と共に2月26日より，イギリスを訪問し，ISOTCI7 幹事国の事務引きつぎの体制を整える予定。

2. フランスから鉄鋼技術調査団来訪の件

Mr. Coche 他，5名の調査団が2月19日から3月2日まで滞在し，主として情報活動，共研部会活動，協会事業などの調査，討論を行ない，新日鉄，他各社を訪問する予定。

編集委員会

第6回編集運営委員会 開催日：2月16日。出席者：長嶋委員長，ほか10名。

昭和54年度俵論文賞の選考を行なった。推薦された候補論文56件を対象に検討し4件の論文を決定した。

第1回和文会誌分科会 開催日：3月2日。出席者：長嶋主査，ほか19名。

1. 17件の論文審査報告がなされ，掲載決定10件，修正依頼3件，その他4件であった。

2. 「鉄と鋼」第65年第8号(7月号)に論文13件，技術資料1件，解説1件，国際会議報告1件，随想1件，掲載決定した。

第1回欧文会誌分科会 開催日：3月7日。出席者：草川委員，ほか6名。

1. 9件の論文につき審査報告がなされ，掲載可3件，照会后掲載可3件，修正依頼2件，一旦返却1件であった。

第2回出版分科会 開催日：2月27日。出席者：佐藤主査，ほか7名。

1. 現在編集中の鉄鋼便覧の体裁について丸善と協議して次のように決定した。

(1) 濃紺クロス上製(丸善特注のもの)

(2) 背文字レイアウト

(3) 序文は発行時点の会長の序文とする。

2. 鉄鋼便覧編集事務局より編集の進捗状況が報告された。

(1) 第一冊目に刊行予定の第二巻はトレース校正ほぼ完了

(2) 第二冊目に刊行予定の第三巻が上，下ともに鉄鋼協会に入稿

3. 刊行時期

(1) 第一冊目の第二巻製鉄・製鋼は昭和54年9月刊行予定。

共同研究会

製鋼部会

第72回部会 開催日：3月8，9日。出席者：山本部会長，ほか116名。

新日鉄・大分で開催した第72回部会では1件の特別講演の他，従来方式通り自由議題，重点テーマの研究発表，討議が行われた。

特別講演題目

「大分製鉄所・製鋼部の現状」

自由議題 発表件数14

連鑄に関するもの 7件

その他 7件

重点テーマ 発表件数 6

「スラブ 連鑄技術の現状—鋼種拡大，品質向上—」

圧延理論部会

第62回部会 開催日：3月8，9日。出席者：岡本部会長，ほか103名。

開催地：新日鉄・堺製鉄所

当部会は鉄鋼各社研究所を中心に，設備・計装メーカー大学が参加し，圧延理論に関する研究論文の発表，および討論を行なっている。今回は鋼板関係が特に多かった。

(1) 鋼板関係論文……………14件(うち形状制御10件
寸法制御4件)

(2) 形鋼関係論文……………4件

(3) その他論文……………4件

鋼管部会

第24回継目無鋼管分科会 開催日：3月1，2日。出席者：永井主査，ほか77名。

1. 熱間押出関係

次の2件の共通議題について，アンケートまとめ結果の発表および質疑応答が行なわれた。

(1) 押出ピレット加工工具技術について

(2) 冷間加工設備について

2. マンネスマン関係

次の2件の共通議題について，アンケートまとめ結果の発表および質疑応答が行なわれた。

(1) ローリングスケジュール(成形)について

(2) 保安全管理(品質との対比)について

第24回溶接鋼管分科会 開催日：3月8，9日。出席者：大日方主査，ほか115名。

1. 電縫・鍛接管関係

次の2件の共通議題についてのまとめ発表および討議が行なわれた。

(1) 塗装・乾燥について(共通)

(2) 連鑄材と分塊材の比較(電縫管)

2. 電弧溶接管関係

次の 2 件の共通議題についてのまとめ発表および討議が行なわれた。

- (1) 品質および工程管理 (スパイラル)
- (2) 歩留管理について (共通)

また、第 23 回分科会の共通議題であつた「品質および工程管理 (ストレートシーム)」についての追加討議が行なわれた。

鉄 鋼 分 析 部 会

第 55 回鋼中非金属介在物分析分科会

開催日: 2月27日. 出席者: 成田主査, ほか16名.

鋼中炭化物抽出用標準試料についての自発検討結果と共同実験結果の報告, 及び共同実験「研究テーマ」についてのアンケート集結結果の報告があつた。

1. Fe-Cr-C 系試料についての自発検討結果の報告 8 件
2. Fe-Cr-C 系試料についての共同実験結果の報告 1 件
3. 不銹鋼 (430 Type) についての自発検討結果の報告 4 件
4. Fe-Ti-C 系試料の析出物の偏析調査結果の報告 1 件
5. 共同実験「研究テーマ」についてのアンケート集約結果の報告

特 定 基 礎 研 究 会

スラグの有効利用に関する基礎研究部会

第 7 回部会 開催日: 1月23日. 出席者: 松下部会長, ほか 20 名.

今回は本年度最後の部会に当り主に来年度の研究計画について大学側委員と企業側委員の間で意見交換を行なつた。

議題

- 1) 昭和 54 年度研究計画について
- 2) 特別研究予算の申請案について
- 3) 昭和 54 年度部会, W. G. 開催予定
- 4) 技術資料作製の進捗状況について
- 5) その他

なお, 4) の技術資料は「鉄鋼スラグの性質とその再利用」と題して「鉄と鋼」に掲載されるものである。

鉄鋼基礎共同研究会

第 11 回特殊精錬部会

第 4 分科会 開催日: 1月22日. 出席者: 荻野主査, ほか 11 名.

1. 開催場所 鉄鋼協会会議室
2. 研究発表
 - 2.1 ESR スラグの表示法
 - 2.2 エレクトロスラグ再溶解用多元系スラグの電導度の推算式

2.3 フッ化カルシウムを主成分とする二元系融体の密度と表面張力の測定

2.4 溶鉄とスラグ間の界面張力におよぼす溶鉄中の酸素の影響

3. その他

部会最終報告書ならびに第 4 分科会特別報告書の進捗状況についての報告があつた。

第 14 回特殊精錬部会

第 5 分科会 開催日: 1月16日. 出席者: 小林主査, ほか 13 名.

1. 開催場所 虎ノ門共済会館会議室
2. 議事概要

部会最終報告書の第 5 分科会担当分について, 各章, 節, 項目のタイトルを決定した。また, 各委員が持参した報告書原稿について全員で査読し, 今後の作成スケジュールを確認した。

鉄鋼の応力腐食割れ部会

第 17 回部会 開催日: 12月20日. 出席者: 春山副部会長, ほか 18 名.

1. 開催場所 鉄鋼協会会議室
2. 研究発表

- 2.1 SERT 法による塩化物中 304 ステンレス鋼の応力腐食割れ
- 2.2 応力腐食割れのき裂発生ならびに伝播方向について
- 2.3 304 鋼の塩化物腐食割れのき裂発生における食孔の役割
- 2.4 ステンレス鋼の塩化物応力腐食割れにおける新しい試験法の開発について

3. その他

部会最終報告書の作成日程について検討を行なつた。

高 温 変 形 部 会

第 8 回部会 開催日: 2月13日. 出席者: 田村部会長, ほか 25 名.

1. 講演

- (1) Fe-Ni-C 系合金の熱間加工による性質の改善
- (2) 二相ステンレス鋼の組織と熱間加工性
- (3) 耐熱鋼の高温変形挙動
- (4) グリーブル形多目的高温変形実験設備の試作

2. 協議事項

- (1) 来年度は部会を年 5 回開催し, うち 1 回は各委員の中間報告会とする。
- (2) シンポジウムは毎年続けたい。

3. 高温変形シンポジウム

翌 2 月 14 日, 新丸ビル地下大会議室で当部会主催のシンポジウムが開催された。7 名の講師により鉄鋼の高温変形研究の現状に関して講演が行なわれた。約 150 名の聴講者の参加があり盛況のうちに終了した。